

文部科学省委託調査研究事業

平成 26 年度

総合的な教師力向上のための調査研究事業

報告書

玉川大学

本報告書は、文部科学省の委託調査研究事業として、玉川大学が実施した、平成 26 年度「総合的な教師力向上のための調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。
したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

はじめに	1
第1章 事業の概要	
1. テーマ	2
2. 実施体制	2
3. 課題認識	2
4. 現状の取組	2
5. 調査研究の目的	3
6. 調査研究の具体的な内容・取り組み方法	3
7. 調査研究における教育委員会との連携	5
第2章 平成26年度 小学校二種免許状取得に関するプログラム	
1. 小学校課程特別履修（芸術学部芸術教育学科）	6
2. 小二免許特別プログラム	10
第3章 意識調査結果	
1. 芸術学部芸術教育学科受講者アンケート	13
2. 小二免許特別プログラム受講者アンケート	20
3. 小二免許特別プログラム受講修了者ヒアリング	25
第4章 公開研究会	43
資料	72

はじめに

玉川大学教師教育リサーチセンター長
玉川大学教育学部・教職大学院教授
森山賢一

教員の資質能力の向上の在り方については、教師教育とりわけ、教員養成を担う大学においては、長年にわたる最重要課題とされている。特に小中一貫教育制度における教員免許制度の在り方にかかる教員養成の方向性とそこでの教員としての資質能力の保証については今後の課題の一つとして位置づけられる。

近年では、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会による平成26年11月の「これからの学校教育をになう教員の在り方」においても社会が急激に変化する中、我が国の教育も、知識基盤社会、国際化、人口減少社会といった時代の変化に即した対応が求められており、教育を支える教員についても新たな時代にふさわしい資質能力を備える必要があることが示されている。ここでの教員免許制度においては、学校種を超えた連携や学制改革の検討を踏まえ、次世代の免許制度の在り方についての検討が進められている。特に小中一貫教育制度の円滑な導入および運用に必要な免許制度にあたっては、小学校教員免許状及び中学校教員免許状の併有の在り方が問われている。

本学は、文部科学省が平成26年度に募集した「総合的な教師力向上のための調査研究事業」の実施団体として「総合大学に開設する小学校免許取得コースの多様な試みに対する比較検証」の研究課題のもとで応募し、採択された。本報告書は、本委託事業の報告書である。

第1章においては、本事業の概要として、実施体制、課題認識、現状の取組、調査研究の目的、調査研究の具体的な内容、取り組み方法、調査研究における教育委員会との連携等について述べた。

次に第2章では、小学校教員免許状及び中学校教員免許状の併有を踏まえた今年度の小学校二種免許状取得に関するプログラムの開発について、全学体制における小学校課程特別履修プログラムおよび、通信教育課程を利用した小学校二種免許特別プログラムの開発の二つの概要と実際の運用について詳述した。

第3章においては、上記の2つの開発したプログラムの受講学生に対する意識調査を実施し、その結果を示した。

さらに第4章では、小学校教員免許状及び中学校教員免許状の併有の現状と今後の課題について公開研究会の実施内容について報告を行った。

最後になったが、本委託事業に協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げたい。

第1章 事業の概要

1. テーマ

教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発

調査研究主題

「総合大学に開設する小学校免許取得コースの多様な試みに対する比較検証」

2. 実施体制

職名	氏名	役割分担
教育学部・教職大学院教授、教師教育リサーチセンター長	森山 賢一	研究総括、教員養成センターと学部との連携研究
芸術学部長 芸術学部教授	中村 慎一	芸術学部到新設する芸術教育学科の運営・カリキュラム研究
東京薬科大学生命科学部教授	田子 健	多様な試みの相互検証と評価
教師教育リサーチセンター客員教授		
芸術学部 教授	辻 裕久	芸術学部到新設する芸術教育学科の運営・カリキュラム研究
教育学部准教授	工藤 亘	工学部と通信教育課程との連携研究
教育学部准教授	太田 拓紀	養成に関わる教育学部と他学部との連携研究

3. 課題認識

小学校教員の実践的指導力向上のために総合大学が大いに力を発揮すべき時期である。本学では、豊かな教科指導力を持つ小学校教員の養成のために専門学部、教育学部、通信教育課程、教員養成センター（本学での名称・教師教育リサーチセンター）の連携による新たな学科およびコースを開設する。この試みの比較検証を通じて小学校教員免許・中学校教員免許の同時取得カリキュラムの開発に資したい。

4. 現状の取組

平成26年度から芸術学部の中高美術、音楽科の教員の養成に特化した芸術教育学科を開設し、同時に小学校2種免許取得のコースを本学通信教育課程との連携によって特別

に開設する。工学部に数学教員養成プログラム設置し、同通信教育課程の履修による小学校 2 種免許取得を可能とする。これらのカリキュラムについて教師教育リサーチセンターが管理する。新たな養成の枠組みが整い、スタートの段階にある。

5.調査研究の目的

本研究は、総合大学が持つ中学校・高等学校教員の養成基盤を活かした教科指導力の高い小学校教諭免許状の同時取得を可能とするカリキュラムの構成とその効果の検証および改善を目的とする。

本学では、芸術学部芸術教育学科の新設また工学部に数学教員養成プログラムを開設し、音楽科、美術科、数学科の教員養成に特化したカリキュラムによる教育を平成 26 年度から開始する。この学科、コースにおいては、中学校、高等学校教諭免許状を取得可能とするとともに、豊かな教科指導力を持つ小学校教諭の養成のために、教育学部、通信教育課程、教師教育リサーチセンターとの連携協同による小学校教諭免許状の同時取得カリキュラムの運用を行う予定である。芸術教育学科では小学校 2 種免許取得のコースを本学通信教育課程との連携によって特別に開設する。これは夏期休業期間に通信教育課程のスクーリング等を当学科学生に限定して特別に実施するもので、同時取得プログラムとして新たな試みである。また工学部に設置する数学教員養成プログラムでは同通信教育課程の通常の履修による小学校 2 種免許取得を可能とする。2 種類の同時取得の方法について実証効果研究を行うことでカリキュラムの改善を図り、得られた知見から同時取得カリキュラムの一般化に貢献したい。

6.調査研究の具体的な内容・取組方法

1) 同時取得プログラムの開発

- ・芸術学部芸術教育学科 芸術学部において音楽科、美術科の教員養成を行うことを目的とした新設学科である。並行して在学中 3 年間で小学校教諭 2 種免許状の取得を同時に可能とする「小学校課程特別履修」を実施する。本学通信教育課程に特別履修コースを設けて本ニーズに限定したスクーリング等の実施を行う予定である。他大学を含めた通信教育課程を受講する通常のタイプとは異なる当学科学生に特定した通信教育課程との連携による教育を想定しており、豊かな教科指導力を持ち小学校教員としての資質能力も高い学生を育てるためのプログラム開発（第 1 類型と称する）をめざしたい。
- ・工学部 工学部において数学教員養成プログラムを設置し、中高数学科教員養成に特化した専門性の高い教育を行うと同時に、通信教育課程における小学校 2 種免許取得プログラムを在学中に受講を可能とする制度改革を行う。専門学部出身であって小学校免

許を持つ教員の養成に着手するプログラム開発（第2類型と称する）をめざしたい。

2) 同時取得プログラムの実施と評価

芸術学部芸術教育学科および工学部数学教員養成プログラムにおけるプログラムの開発を行いつつ、実施に移るカリキュラムに対して、その実施と評価を行うことで一層の改善に結びつけたい。第1類型と第2類型とでは、同時取得の理念と方法が異なるため、その比較検証が重要な課題となる。カリキュラム評価には受講学生の意見を反映させるため、インタビューおよび調査票による調査を行うこととする。

3) 通信教育課程での教育の検証と改善

この試みは通信教育課程のカリキュラムと指導方法に変化をもたらすため、本プログラムを受けた通信教育課程での教育の検証を行う。効果的で実施可能性の高い同時取得プログラムの開発のためには欠くことができないものである。通信教育課程での学習の検証と改善にも、上記の学生の意見の反映を同様にを行う。

4) 教師教育リサーチセンターにおけるカリキュラム管理方法の開発と検証・改善

大学内における複数学部間の協力が求められる養成プログラムを立ち上げるため、その全体を俯瞰し調整する組織が必要である。教師教育リサーチセンターにおけるカリキュラム管理方法の開発と検証・改善を行う。センター方式によるカリキュラム管理運営については、他大学の事例を参考とするため、名古屋地区大学、九州地区大学に対してカリキュラム管理方法の改善のための意見・情報交換を行う。

5) 教育委員会との連携の具体的方法の開発

新たな試みに対する質的評価と助言について、教育行政機関との連携を密とする。大学所在の町田市教育委員会との連携協力により、複数免許同時取得という新たなカリキュラム運営、特に教育実習、教育実習事前事後指導、教職実践演習のあり方を共同で開発する基盤を形成する。

6) 公開研究会の開催

研究の集約として、小学校教諭と中学校高等学校教諭の免許状同時取得に関してあるべき一般的方向を提案する公開研究会を開催し、研究報告書の刊行と併せて本研究の成果を明らかにしたい。これは同時取得カリキュラムの原則・方法上の改善とその一般化を図る上で重要な契機となる機会と考える。

7.調査研究における教育委員会との連携

連携先教育委員会： 町田市教育委員会

連携内容：

新たな試みに対する質的評価と助言を得るとともに、町田市立学校において教科指導力の高い小学校教員との相互交流を通じて、養成すべき人材像の明確化を図る。

第2章 平成26年度 小学校二種免許状取得に関するプログラム

1. 小学校課程特別履修（芸術学部芸術教育学科）

● 芸術学部概要

「未来の社会を創る芸術力を育成し、芸術によって社会貢献できる人材を養成する。」

芸術学部は新しい時代を生きる若者や子どもたちの未来を見据えて、平成26年4月からマルチメディア環境における表現や芸術の産業化に対応した「メディア・デザイン学科」。既設の教員養成課程を統合して、次世代の芸術による教育を担う人材養成（教員養成）を目的とする「芸術教育学科」。演劇、舞踊、音楽の学修を通してコミュニケーションやコーディネート能力の育成を強化した「パフォーマンス・アーツ学科」の3学科で編成され新しいスタートをきっている。

そのうち「芸術教育学科」においては、1年次より学校教育の現場を参観する機会や教職課程学習支援室の活用など、個々の学生が実感を基にして自己の課題を発見し、目標をもって学修に取り組める教育体制が組まれている。また、社会のグローバル化に対応して、「Arts Education」や「Arts Criticism」などの英語で芸術教育を学べる科目群を設置するなど、夢の実現に向かって学修をすすめることができる。また芸術学部設置されているため、演劇、ミュージカル、舞踊、音楽などのパフォーマンス・アーツやデザイン、メディアアート、コンピュータグラフィクス、アニメーション、映像、コンピュータ音楽など、常に最新の芸術表現に触れながら芸術教育を学ぶことができる環境が整っている。

平成26年度よりスタートした芸術学部芸術教育学科において小学校教員二種免許状取得プログラムの開発を行い、実施した概要について詳述する。

さきに述べたように、芸術学部芸術教育学科においては、音楽教育のコースでは、中学校教員免許一種音楽、高等学校教員免許一種音楽、美術教育コースにおいては、中学校教員免許一種美術、高等学校教員免許一種美術、および一種工芸が取得可能である。これらの中・高免許に加えて小学校教諭二種免許の取得希望学生が非常に多い。これらの併有免許プログラムの小学校二種免許取得のコースを「小学校課程特別履修」と名付け、芸術教育学科に在籍する学生が、小学校教諭二種免許状取得に必要な科目単位を夏期（夏期セッション）と冬期（冬期セッション）の2つの特別学期開講による対面授業での履修プログラムである。

まずはじめに、小学校課程特別履修の概要を示す。

開講は1年次の特別学期（夏期セッション）から、3年次までの6つの特別学期において小学校教諭二種免許状取得に必要な科目単位のうち、小学校教育実習を除く、必要科目をすべて修得し、4年次に小学校教育実習（事前事後指導を含む）を受講する。

このプログラムは、教育職員免許法施行規則第6条第1項表備考第12により、芸術教育学科で取得する中学校一種教育職員免許状（音楽、美術）および、高等学校一種教育職員免許状（音楽、美術、工芸）の免許状取得に必要な単位を一部流用することで、小学校教諭二種免許状取得のための単位数が軽減されて、4年卒業と同時に小学校教諭二種免許状が取得できるというものである。

したがって、4年間で小学校教諭二種免許状を取得するには、中学校一種教員免許状および、高等学校一種教員免許状（音楽または美術）を取得できることが条件となる。

●履修概要

特別学期（セッション）とは、春学期、秋学期以外に開講する学期であり、8月～9月に行うサマーセッション（SS）と2月～3月に行うウィンターセッション（WS）の2つの期で開講されている。また、特別学期（セッション）では通常期である春、秋学期の開講形態である週1回2コマ100分×15周+定期試験を、学修時間を確保しながら集中して開講するため、1日あたり4コマ200分（途中に自学習として2コマ分の空き時間が入る）×8回（試験を含む）で実施される。特別学期（セッション）開講の形態と4年間の計画は図1の通りである。

1セメ	SS	2セメ	WS	3セメ	SS	4セメ	WS	5セメ	SS	6セメ	WS
-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----

	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	8時限
1	1回目				2回目			
2	3回目				4回目			
3	5回目				6回目			
4	7回目				8回目			
5	9回目				10回目			
6	11回目				12回目			
7	13回目				14回目			
8	15回目							
	試験							

図1：特別学期開講イメージ

なお、各特別学期（セッション）での受講科目数ならびに単位数を1年次サマーセッション、1年次ウィンターセッション、2年次サマーセッションは各2科目4単位の開講とし、2年次ウィンターセッションで3科目6単位開講、3年次サマーセッションでは、1科目2単位開講、3年次ウィンターセッションでは3科目6単位開講として計画した。

詳細について、平成 26 年度サマーセッションの実施計画をもとに示すことにする。

実施計画(平成 26 年度サマーセッション)

学生への提示	6 月 30 日(月)	
	I 期	II 期
学生受講申し込み期間	7 月 25 日(金)～29 日(火)	8 月 13 日(水)～15 日(金)
授業日程	8 月 1 日(金)～15 日(金)	8 月 20 日(水)～9 月 10 日(水)
試験日	8 月 18 日(月)	9 月 11 日(木)
成績公開(Web)	9 月 2 日(火)	9 月 18 日(木)
成績認定時期	平成 26 年度 秋学期(第 2 セメスター)末	

平成 26 年度のサマーセッションでは、I、II の 2 期制とし、それぞれの授業日程を組んだ。受講の申し込みについては、本学で活用している UNITAMA での掲示機能により申請することとした。

なお、受講申し込み期間内であれば、申請の取り消しを可能とすることとした。

受講料および納入方法については、1 単位につき 4,000 円（したがって 1 科目 8,000 円）とし、受講申し込み期間中に受講料を納入し、受講手続きを行うこととした。

最終の試験については、セッションの授業終了後に行い、原則として追試験は実施しないこととした。

単位認定については、①セッションで修得した単位については次学期に単位認定とし、次学期の履修上限単位には含まないこと、②卒業要件の単位として位置づけ GPA (Grade Point Average) 計算の対象とすること、③次学期の履修上限単位には含まないが、当該学期の GPA 計算には含まれるので学修継続条件判定（警告）の対象であること、④次学期の途中の段階において退学した場合は、単位の認定は行わないことの 4 項目を設定し、単位認定の明確化を図るよう努めた。

開講科目とその開講時期（セッション）は図 2 の通りとした。

履修科目

科目名	単位	1年		2年		3年		4年	
		SS	WS	SS	WS	SS	WS	春セメ	秋セメ
(教科)国語	2	●							
(教科)算数	2	●							
教育課程編成論(小)	2						●		
国語科指導法	2				●				
算数科指導法	2				●				
理科指導法	2		●						
社会科指導法	2			●					
音楽科指導法	2						●		
図工科指導法	2		●						
道徳教育の理論と方法 (幼・小)	2			●					
特別活動の指導法(幼・小)	2					●			
教育の方法と技術(幼・小)	2				●				
教育相談の方法と技術 (幼・小)	2						●		
教育実習事前指導	3							●	
教育実習									●
単位数合計	29								

図 2

2.小二免許特別プログラム

●小二免許特別プログラムの概要

本学は学士課程において通学課程と通信課程をもつ。この通信課程は教育学部教育学科にのみ開設され、これまで大変多くの教員を輩出した実績をもつ。ここでの教員免許取得の方法の一つとして、教育学部を除く本学通学課程に在学している学生が小学校教諭二種免許状取得を行うことがこれまでも行われてきた。

本稿においては、今年度委託研究事業において、明確に「小二免許特別プログラム」としてプログラム開発に沿って整理し、まとめ、その現状および課題を検討する資料とした。

さきに述べたように「小二免許特別プログラム」は本学教育学部を除いた通学課程（教職課程認定学部学科）に在学して、教職課程の履修をしている学生が、小学校教諭二種免許状取得に必要な科目単位を本学教育学部教育学科・通信教育課程で科目単位を他学部他学科聴講により履修するプログラムである。

このプログラムの実施期間は、平成26年4月～平成28年3月までの2年間とする。したがってこの2年間で所定の科目単位が修得できるように学習計画を立てることが必要である。ただし登録期間は1年間ごとにした。1年経過時に所定の継続履修手続きを行うことになる。実施期間が終了した段階において、各自の単位の修得状況にかかわらず、このプログラムは終了とするものである。

本プログラムによる小学校教諭二種免許状取得についての根拠法令については各学生が所属している学部で修得した単位を一部分流用することを前提としている。正確には、教育職員免許法別表第1（第5条）関係を根拠とし、教育職員免許法施行規則第6条第1項表備考第12により、現在所属する学部で他免許状取得を目的に修得する単位を一部流用することにより、小学校教諭二種免許状取得のための単位数を軽減するという特別な方法によって進めた。なおこの単位の一部流用は、所属する学部で免許状が取得できた場合のみに認められる。したがって所属する学部において免許状が取得できなかった場合においてはこのプログラムのすべての科目を修得したとしても、小学校教諭二種免許状は取得できないこととなる。

次に履修方法について説明することにする。ここでの履修方法いわゆる学習方法の特徴は、テキスト履修とスクーリング授業の2つから成り立っていることである。

テキスト履修はテキスト自学自習してレポート作成、提出ののち、科目試験を受験して単位を修得する学習方法である。レポートと科目試験の両方に合格すると単位が修得される。

レポートは1単位について1通の提出が必要であり、このプログラムにおいては、2単位科目が開講されているので、2通のレポートを提出することによって科目試験が受験可能となるのである。

スクーリング（対面式）履修については、一定期間集中的に授業を受講して単位を修得

する学習方法であり最終日（最終時間帯）に試験を受験し、合格することにより単位が修得できるものである。単位修得の要件は以下のように定めている。

- ・出席数（出席時間数）が充足していること
- ・受講に際して課題を提示するがその課題（スクーリングレポート）が期限までに提出されていること
- ・最終評価（期末試験等）が合格基準に達していること

スクーリング（対面式）履修登録科目について1年目は3科目6単位を原則として、夏期スクーリングで受講し、春期・冬期での受講も可能とする。

さらに履修にかかわって重要なものとして教育実習があげられる。本来、小学校教諭二種免許状の取得にあたっては、5単位の教育実習単位が必要であるが、教育職員免許法施行規則第6条第1項表備考第12を根拠にして、所属する学部において、免許状を取得するにあたって行う教育実習の単位を一部流用し、3単位を修得する形をとっている。

その3単位の内訳については、事前・事後指導1単位と実際の現場での実習2単位（2週間）を原則としている。ただし、教育実習校や受入れ地域によっては単位の流用ができない場合もありうる。その場合においては、事前・事後指導1単位と現場での実習4単位（4週間）の教育実習が必要となる。

教育実習を実施するにあたっての受講資格を明確に定めている。この受講資格は、一定の学習の上で専門的な知識を身に付けたことを条件として教育実習の受講を許可するものである。

受講資格要件は、以下の通りである。

- ・教育実習事前指導（講義）の受講
- ・基礎単位の修得

教育実習受講1ヶ月前までに1年目の履修登録科目である教科に関する科目1科目2単位、教職に関する科目7科目14単位のすべてを修得していること。

本プログラムにおいて履修した科目については、セメスター上限単位には含まれないが、修得した単位は、卒業単位に算入し、GPA計算の対象とする。

本プログラムの免許取得にかかわる全体の教育課程は次の表の通りである。

小二免許特別プログラム教育課程

免許法施行規則に定める科目名		単位	中・高免許取得のための学習により活用できる単位	通信教育部における履修科目	単位	補足説明		
教科に関する科目	国語(書写を含む.) 社会 算数 理科 生活 音楽 図画工作 家庭 体育	4	-	国語(書写を含む。)(2) 社会(2) 算数(2) 理科(2) 生活(2) 音楽(2) 図画工作(2) 家庭(2) 体育(2)	4	○2科目4単位を選択し修得する。		
	教科に関する科目計		4	0		4		
	第2欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2	-	○施行規則第6条表備考12により他免許状取得のため修得した科目単位をもってこれに充てる。	
			教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) 進路選択に資する各種の機会の提供等					
	第3欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	4	-	○施行規則第6条表備考12により他免許状取得のため修得した科目単位をもってこれに充てる。	
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)				○施行規則第6条表備考12により他免許状取得のため修得した科目単位をもってこれに充てる。	
	第4欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	14	-	-	○施行規則第6条表備考12により他免許状取得のため修得した科目単位をもってこれに充てる。	
教育課程の意義及び編成の方法			教育課程編成論(2)				2	○6科目12単位を選択し修得する。 ※音楽、図工、体育を含む。
各教科の指導法 (音楽、図工、体育のうち、2教科以上を含み、6教科12単位が必要)			国語科指導法(2) 社会科指導法(2) 算数科指導法(2) 理科指導法(2) 生活科指導法(2) 音楽科指導法(2) 図工科指導法(2) 家庭科指導法(2) 体育科指導法(2)				12	
道徳の指導法			道徳教育の理論と方法(2)				2	
特別活動の指導法			特別活動の指導法(2)				2	
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法と技術(2)	2						
第5欄	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2	-	○施行規則第6条表備考12により他免許状取得のため修得した科目単位を2単位充て、2単位を修得する。		
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法					児童理解と教育相談(2)	2
		進路指導の理論及び方法						
第6欄	教育実習	5	2	教育実習	3	○施行規則第6条表備考12により他免許状取得のため修得した科目単位を2単位充て、3単位修得することを原則とする。		
第6欄	教職実践演習	2	2	教職実践演習(教論)	-	○施行規則第6条表備考12により他免許状取得のため修得した科目単位をもってこれに充てる。		
教職に関する科目計		31	12		25			
教科又は教職に関する科目		2	-		-	○2単位については「教職に関する科目」の余剰分を充てる。		
教科又は教職に関する科目計		2	0		0			
免許法施行規則第66条の6に定める科目名		日本国憲法	2	2	-	○所属学部で修得した科目単位をもってこれに充たさせ、通信教育部ではいずれの科目も修得の必要はない。		
		体育	2	2				
		外国語コミュニケーション	2	2				
		情報機器の操作	2	2				

第3章 意識調査結果

1.芸術学部芸術教育学科受講者アンケート

芸術学部小学校課程特別履修に関する意識調査

玉川大学教師教育リサーチセンター

芸術学部では、本年度芸術教育学科を開設し芸術教育に対する専門教育を行うとともに、中学校・高等学校（音楽・美術・工芸）免許に加え、小学校教諭2種免許を取得することを可能とする「小学校課程特別履修コース」を開設しました。このコースを履修する皆さんの意見を伺いながら、今後のコース運営をよりよくしていきたいと思っておりますので、以下の設問に答えてください。よろしくお願いいたします。

* 下記質問に対して、【】内の該当する回答に○、また記述にて回答をお願いします。

1. あなたは、教員免許状を取得しますか？（中学校・高等学校の免許含む）

【はい・いいえ】

* 「はい」を選んだ方は続けて2から回答してください。

「いいえ」を選んだ方は※の1. 2のみ回答して本アンケートを終了してください。

2. あなたは小学校課程特別履修コースを履修していますか？ 【はい・いいえ】

* 「はい」を選んだ方は続けて3から回答してください。「いいえ」を選んだ方は9を回答してください。

3. あなたは入学前にこのコースのことを知っていましたか？

【知っていた・知らなかった】

4. 【知っていた方のみ】そのことは本学科を選択する上で、どの程度の重要性がありましたか？

【選択の第一の理由が小学校免許取得である・選択理由のひとつである】

5. 履修登録をした時点と現在を比較して、小学校免許取得への意欲はどのような状態にありますか？

【登録時点のほうが意欲は高かった・変化はない・現在のほうが意欲は高い】

6. その理由は何ですか。自由に記してください。

7. 履修登録をした時点と現在を比較して、小学校免許取得までの具体的な履修内容・方法への理解はどのように変化しましたか？

【現在のほうが履修内容・方法の理解は深まった・まだあまり変化はない】

8. 夏休みや冬休みなど休業期間に必要な科目を履修するシステムについて、あなたの見方を選んでください。

【通常の学期には履修出来ないなのでこの方法が適当である・むしろ土曜日や日曜日の履修を可能として欲しい・特に意見はない】

9. 小学校課程特別履修コースを履修しなかった(または、途中でやめた)理由についてあなたのご意見を自由に記載してください。

※ 最後に下記項目について教えてください。回答のすべては統計的に処理し、回答の内容が他に知られたりすることはありません。

1. 性別【男・女】

2. 教員を第一に希望する学校種は【小学校・中学校・高等学校】

3. 取得予定免許は(すべてに○)

【小学校、中学校(美術・音楽)、高等学校(美術・音楽・工芸)】

以上です、ありがとうございました。

芸術学部小学校課程特別履修に関する意識調査【記述①】

NO	Q6その理由はなんですか？(自由記述)	Q9小学校課程特別履修コースを履修しなかった(または途中でやめた)理由についてあなたのご意見を自由に記載してください
1	2: 小学校免許は中学・高校のためにとっているからです。	
2	1: 教員になるという意識が低くなったため。ほかに興味をもつ職業ができたため	第一に専門分野を学びたかったため
3	3: サマーセッションの単位はフル単位だから	
4	2: 先生になりたいから	
5	3: 授業を受けたから	
6	2: 小学校免許取得するという目標は履修登録した時と変わらないため	
7		
8		
9		
10	2: 小学校免許を取得すると決めていたから	
11	1: 単位が取れるか分からなかったから	自分にはあまり必要がないと思ったから。
12	1: 休みにやる意味がわからない	あんなに一気に休みにやる意味がわからない。
13		小学校教諭2種免許をとるつもりがなかったから
14	1: もう少し専門的に音楽の勉強がしたいから。	
15		
16	2: 小学校免許取得のため、夏、春の長期休暇がなくなってしまうことは大変なことだが、小学校免許を取得したいという意味は、以前と変わら	
17	1: コースの日程の組み方に不満があるから	
18	1: 参観実習を通して、小学校よりも中・高の方に興味関心が向いたため。	
19	2: 特にありません	
20	2: 思っていた通り二種免許だから	
21	3: 小学校教師にも魅力を感じたから	
22	3: 実際に小学校の学童の現場で先生として活動して様々な体験をしたからです。	
23	1: 夏休みと冬休みがないと思っていなかったから。	
24		
25		
26		
27	1: 中学校教諭になりたいため、小学校免許は取得したい。だが、自分の力量的に難しいかと考えたから。	
28	3: 小学校教員をもとから目指していたから。	
29	2: 中学の先生になる場合、小学校の免許が必要と先生に聞いたから。	
30	2: 特になし	
31	2: 特にないです	
32	3: 小さな子供が苦手だと思っていたが、参観実習で中学校に行き、小学校、中学校程度の子どもと接することも楽しそうだったから。	まず長期休みを利用しなければならないことがおかしいと思う。通常授業の中で選択できるようすべき。4年間の全ての長期休みが無いとなると、運転免許
33		
34		中高課程を履修することだけで、精一杯なので、履修しませんでした。
35		小学校の教師は自分にむいてないと考えたから。
36		高等学校の教師になりたいから。夏休み期間はアルバイトをしたい(しなければ学費が払えない)
37		小学校の教科(全教科)を教えられる自信がなかった。長期やすみを利用して様々な体験をしたかった
38		
39		高等学校の免許を第一に考えていたから
40		
41		中高の教員になりたかったため夏休みなど自分で学童保育などしたかった
42	6: 小学校教諭の方が倍率が高いこと。小2免許の学習をして楽しかったから。	
43	2: 想像していたものと少し違っていました。問題はあります。	
44		
45	2: 特になし	
46		
47		就職に有利だということは知っていたが、小学生よりも中高生のストレートに感情を伝えてくることが、自分に合っていると思ったから。

芸術学部小学校課程特別履修に関する意識調査【記述②】

NO	Q6その理由は何ですか？(自由記述)	Q9小学校課程特別履修コースを履修しなかった(または途中でやめた)理由についてあなたのご意見を自由に記載してください
1	2: 小学校免許は中学・高校のためにとっているからです。	
48		サマーセッションで受講した授業の単位1つ落としてしまい、高等教諭免許をメインに取りたいと考えていたので小学校教諭免許は取らず実技免を磨いていこうと決めた。
49	2: 小学校免許は元から取得したいと思っていたので変化はない。	
50		高校の教師になりたかったため
51	2: なし	小学生に教えるのは自分に合っていないと感じたため
52		小学校の教員免許は必要では無かったため。
53		小学校教員を目指しておらず、免許を取得する余裕がないと考えたから
54		必要ではないと思ったから
55	3: サマーセッションを受講したときに、小学校の様子、授業の仕方などうけて最初の頃より、小学校に興味深まり、取得したいと思いました。改めて小学校の教師についてかんがえてみる	
56	2: 現時点での希望が中学校の音楽教員なのですが、小学校からの連携はとてほしいことだと思っています。その理由と第二希望が小学校だからです。	
57	2: やはり音楽の実技で食べていく気持ちに変わらないから。	特に興味はわかかなかった
58	1: 夏に国語と算数について学び小学校での基礎的な内容がしっかりしていることで、その後の中学校や高校の勉強にもつながると分かった。したがって、中学校志望ではあるが、小中連携の所も増えているように中学校の教員になる上でも、小学校の学習内容を知っておくことが必要だと感じたためである。	